

児童の主体性を引き出す学習課題の工夫
～夢中になれる課題解決型の社会科授業の構築～

小牧原小学校 清家 武博

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が示されている。また、小学校社会科の教科の目標の柱書部分に「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」資質・能力の基礎を育成することを目指すという旨が記載されている。つまり、小学校社会科において、主体的・対話的に課題について追究したり解決したりする活動が、児童の資質・能力の育成に不可欠であることが分かる。

昨年度、5年生3学級の社会科の授業を担当した。年度当初に社会科の授業は好きかどうかを尋ねたところ最も多かった回答が「普通」であった。「教科書で調べてノートにまとめるだけで面倒くさい」「教科書を読めばテストで良い点は取れる」などが、その理由であった。教科の授業に対する好悪が、そのまま資質・能力の育成の結果に影響するとは断言できないが、主体性の多少には少なからず関与してくると経験則から言うことができる。つまり、社会科の授業を好きになること、言い換えると関心を高めることによって、主体的に課題を追究したり解決したりするようになり、児童の資質・能力を効果的に育むことができるのではないだろうか考える。関心を高めるためには、学びたくなるような学習課題が必要であることは言うまでもない。また、対話を通して協働的に学ぶことで、多様な考えに触れ、自分の考えを形成し、学びを深めることができるであろう。以上のことから、本主題を設定し実践を行った。

2 目指す子ども像

- (1) 主体的に課題を追究したり解決したりしようとする児童
- (2) 対話を通し、社会的な見方・考え方を働かせながら協働的に学ぶ児童

3 主題に迫る手だて

(1) 研究の仮説

- ア 児童が自ら持った疑問や関心のある事象を学習課題に反映させ、問題解決型の授業を行うことで、主体的に課題を追究したり解決したりするようになるのではないかと。
- イ 少人数グループで学習課題を決め、課題解決に取り組む機会を設定することで、対話の量や質が向上し、社会的な見方・考え方を働かせながら協働的に学ぶことができるのではないかと。

(2) 研究の構想

ア 実践単元

「低い土地の暮らしー岐阜県海津市ー」（5月）

「情報産業とわたしたちの暮らし」（1月）

イ 手立て

(ア) 児童のふり返りを生かした学習課題を設定し、問題解決型の授業を行う。

(イ) 小グループ毎に学習課題を設定し、課題解決を行う機会を設定する。

ウ 検証方法

以下の2つを基に考察する。

- (ア) 児童のふり返りにみられる考えの変容（単元終了時、第5学年課程終了時）
(イ) 第5学年課程終了時のアンケート結果（検証に影響がないように無記名で行うものとする。）

4 実践

ここでは、二つの授業実践の事例を挙げる。

(1) 第1次実践「低い土地の暮らしー岐阜県海津市ー」（5月）

単元の導入で、海津市の地理的環境を地図帳や教科書を使用して確認し、周りを大きな川で囲まれている低い土地であるために水害が多く、堤防を築くなどの工夫をしてきたことを押さえた。その後、ふり返しとして、本単元で調べたいことや疑問に感じたことなどを、タブレット端末を使用して書かせ、提出されたものを集約し、次時からの学習課題に反映させた。

資料1は、児童Aが挙げた疑問である。児童により表現の仕方は異なるが、「どうして水害の多い海津市に住み続けるのか」「治水工事がどのように行われてきたのか」「洪水の時に人々は、どうしていたのか。また、洪水に備えて工夫していることはあるのか」「海津市では、どのような産業がさかんなのか」などの疑問が多く挙げられた。

第2時では、その中から「水害の多い海津市に住む理由」を学習課題とした。児童へは学習のめあてとして「どうして水害の多い海津市に住むのだろう」と提示し、多くの児童が自ら感じた疑問を、自分達自身で解決していく学習であることを伝えた。また、教科書、資料集だけでなくインターネットを活用して情報を収集してもよいことと、調べる視点として、現代と昔の海津市に住む利点と欠点を調べ、比べながら理由を考察するとよいことを伝えた。

自分たち自身の疑問を解決することを伝えられたことで、活動する意欲が高まり、主体的に調べ学習に取り組む様子が見られた。現代の海津市に住む利点や欠点として、産業や自然環境、交通などの面から様々な情報や考えがまとめられていた。昔の海津市に関する資料はあまり見つからなかったようであるが、水が豊富で農業が盛んであることや、水害が今よりも多いということがまとめられているものが多くあった。資料2は、児童Bがまとめたものである。昔から、農業に欠かせない水が豊富にあることに着目し、そこに関連付けて堤防づくりや海津市に住むための堤防の必要性について考えを広げていることが分かる。

資料1

- どうやって川を整備したの。
- だれが工事をしたの。
- 台風や大雨の時の訓練などで小牧市とちがう取り組みはあるの。
- 川が近くにあるから水産業がさかんのかな。
- 堤防や川の工事以外にも海よりも低い土地ならではの工夫している事はあるのかな。
- なぜそこまでして海津市に住むのかな。

資料2

どうしてかと言うと
田んぼを営む時、
‘1番困る水不足’に、
ほぼならないと、
江戸時代の人が思ったからだと思いま
す。でも一つ難点があり、そこが氾濫し
やすい所なので江戸の人は、‘これじゃ
あ田んぼを作ったら氾濫した時、流され
てしまう’
と思い堤防を作ったのかなと思いまし
た。明治時代になって堤防が老朽化が進ん
でたので明治時代に直して
今も、海津市に住んでいるのかなと思
いました。



写真1



調べ学習後に、児童同士による考えの交流を行い、現代も昔も海津市に住むのは、豊富な水を生活に活用できるからであり、洪水等の水害への対策を工夫しているという考えを共有することができた（写真1）。また、江戸時代の物流の多くを船が担っており、川があると有利であったということを発言する児童がおり、多面的な考えを共有することができた。

児童Bらがまとめた結果や話し合いの様子から、第3時の学習課題を「治水工事の歴史」とし、「いつ、だれが、どのように治水工事をしたのか調べよう」という学習のめあてを提示して、宝暦

治水や三川分流工事について学習した。宝暦治水について詳しく調べる児童、明治の三川分流工事に携わったヨハネス・デ・レーケについて資料を添えてまとめる児童、宝暦治水、三川分流工事の両方について要点をまとめる児童（資料3）と、さまざまであったが、調べ学習後の小グループや全体での交流を通して、治水工事の歴史を確認し、知識の獲得を行うこともできた。

同様にして、授業内やふり返りから児童の疑問や調べたいことを見取り、「海津市の産業の特色」「海津市の農業」「洪水への対策」について調べる学習を行った。

単元のふり返りでは、調べることで疑問が解決できたことや獲得した知識、学習内容に関する感想やさらに調べてみたいこと等が書かれており、主体的に学習に取り組めたことを窺い知ることができた（資料4）。

資料 3

江戸時代

宝暦3年12月に木曾三川を分ける治水工事
薩摩藩に命じられ、宝暦4年から5年にかけて総奉行の
平田鞆負をはじめとするおよそ1000人の藩士を派遣し
大がかりな治水工事が行われた。

明治時代

宝暦3年に工事が行われたが下流域では木曾三川がはっきりと
分流されてなく洪水が多かった
そこで、明治6年にオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケに治水の策を
講じる事とし、1900年に木曾三川分流計画の工事が終わった。

資料 4

低い土地のくらしー ふりかえり

輪中の名前は聞いたことがありましたが、そんなに知っていることがなかったので、調べる機会があったよかったです。

輪中のことについて調べると、輪中の人々の生活や歴史について知ることができました。輪中の地形や歴史を見ると、どうしてそこまでして輪中でくらししているのか不思議でしたが、さらに調べるとその理由が分かりました。次は高い土地も調べてみます。

単元のふりかえり

海津市がよりくらしやすいところになるようにするために、たくさんの人が関わっていることが分かりました。
堀田をつくって、水路を舟で通っていたことが印象に残りました。
輪中のたくさんのことが知れて、ほかにも輪中のれきしを調べたいと思いました。
水防倉庫や水防演習など、海津市は小牧市よりも水害への対策があることを知りました。
水屋や千本松原などを実際に見てみたいです。
鹿児島県から人が来るなんてすごいなと思いました。

(2) 第2次実践「情報産業とわたしたちのくらし」（1月）

タブレット端末を活用し、児童が自らニュースづくりを行うことで、放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力、自分たちの暮らしとの関連性などに気づくことをねらいとして本活動を構想した。その際に、主体的で対話的な学習活動になるよう、少人数グループ毎に学習課題「〇〇についての情報を伝えるニュースづくり」を決めた上で、課題解決に取り組んだ。

第1時で、新聞のテレビ欄を見て、グループや全体で話し合うことで一日の中で放送されるニュース番組の多さに気づいた後、ニュース番組づくりで重要な、情報の「集め方」「選び方」「伝え方」について調べ学習を行った。教科書、資料集以外にインターネットを活用して調べてよいこととしたが、この時期になると、短時間で資料5のように要点を上手くまとめることができる児童が多くなってきた。

第2時から第4時までの3時間を使いニュース番組づくりに取り組んだ。先に述べた通り、本活動の学習課題となる「〇〇についての情報を伝える

ニュースづくり」をグループ毎で話し合っ決めて。小牧南小学校の情報も含む「今の時代の新校舎について（小学校編）」や「小牧市のおいしいスイーツ屋」「東山動物園の動物

資料 5

テレビのニュース番組

①情報の集め方

- ・ 現地で取材
→話を聞く、映像を撮る
- ・ 外国から
→人工衛星、インターネット

②情報の選び方

- ・ 人権、公平、公正などに気を配る
- ・ 見ている人はどんな情報をもとめているのか。
- ・ 編集
→どの場面が一番大切か
見る人はどんな映像を求めているか

③情報の伝え方

- ・ 誰にでも分かる言葉
- ・ 落ち着いてゆっくりと話す。

紹介」「学級目標について」など、自分たちの身近な話題の情報や、「様々なギネス記録」「犬の種類」など、情報の受け手が関心を持ちそうな情報を採り上げるグループなどがあつた。その後、情報の「集め方」「選び方」「伝え方」についてよく話し合いながらニュースづくりを行うよう伝えた。

活動時間の関係上、他者へのインタビューは控え、インターネットの情報を手がかりに情報収集を行うよう助言した。インタビュー活動を取り入れれば、より情報の幅も広がり、さらに主体的に楽しみながらできる活動になると思うと残念であるが、それでも児童たちは、意欲的に話し合いを重ね、情報を収集したり編集したりしていた。

情報の収集については、班員が分担して調べたことを集めて統合するグループや、一つの情報について全員で調べ、多くの目で深く掘り下げていくグループなど、自分たちで決めた方法で進めていた。

情報を選択、編集する際には、3分間以内の動画にすることという条件をつけたため、「この情報を入れても、伝わらないのではないかな」や「どうしてもこの情報は入れたい」、「どの言葉を削ったら、時間内で上手く伝わるかな」などの対話が、どのグループでも生まれていた（写真2）。

情報を伝達する方法についても、グループ毎に工夫が見られた。テレビのニュース番組同様にキャスターが情報を読み上げるグループや、テロップや話題を画面上にうつし情報を伝わりやすくするグループ、写真や自筆のイラストを使って視覚に訴えるグループなどがあつたが、これも対話から生まれた工夫である（写真3）。

第6時には、作成したニュース番組を学級全員で見て、感想を交流した。自分たちが作成したニュース番組を見た級友の反応や感想、ニュース番組を作成した過程から、情報を伝えることの難しさや、情報を集め発信するまでの工夫や努力について理解を深めたことが分かるふり返りが多く見られた（資料6）。

写真 2



写真 3



資料 6

振り返り

わたしは、グループの子と実際にニュース番組を制作してみて、一本のニュース番組を作るのはとても大変なんだと気づきました。
一番大変なのは伝える時でした。カメラに、みんなで作ったスライドをちゃんと見えるように置き場所を調節したり、見ている人がちゃんとわかるように速度を調節して言ったりしたからです。集めたり選んだりする時も工夫をしました。
集める時は、情報を交換しあったり、選ぶ時は、なるべく幅広く内容を選びました。
もしまたニュース番組を作る機会があつたら、前よりももっと工夫して作りたいと思います。

情報を集めるときに知りたい情報やほしいものがなかなか見つからなくて大変でした。
たくさんある情報から意図が正確に伝わるように選ぶのがむずかしかったです。
どういう風にそのニュースが出来たか知らない人にも分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか考えてつくることが出来ました。
どんな内容にしたらいいのか、伝わりやすいのかなど工夫してつくりました。
考えないといけないことが多くて大変だったけど、ニュースが完成したときはがんばって良かったなと思いました。
どういう言葉や言い方にしたら分かりやすくなるか考えるのが楽しかったです。
今回は動画をとってからそれを流せばよかったから読み間違えてもよかったけど、ニュースは生放送だからキャスターの人は一発で話さないといけなくて私は少し読み間違えてしまったのでキャスターの人はすごいなと思いました。

5 考察

(1) 仮説アについて

第1次実践「低い土地の暮らしー岐阜県海津市ー」において、児童自らの疑問や調べたいことを基に学習課題を設定し、学習のめあてを工夫して問題解決型の授業を行うことで、調べることに對しての嫌悪感は減少し、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。また、自分たちの活動によって問題解決できた経験から、次の課題を自ら見出し、さらに調

べてみたいとふり返りに書いている児童が多く見られた。

年度末に行ったアンケートの項目の一つ、「学習の中で、自分で疑問に思ったり、調べたと思ったことはありますか」の質問に対して、「あった」「たくさんあった」と約 85 パーセントの児童が回答したことからも、自ら持った疑問を調べたいと考える児童が大多数を占めるようになったことが分かる（資料 7）。

以上のことから、「児童が自ら持った疑問や関心のある事象を学習課題に反映させ、問題解決型の授業を行うことで、主体的に課題を追究したり解決したりするようになるのではないか。」という仮説アは立証されたと考える。

（2）仮説イについて

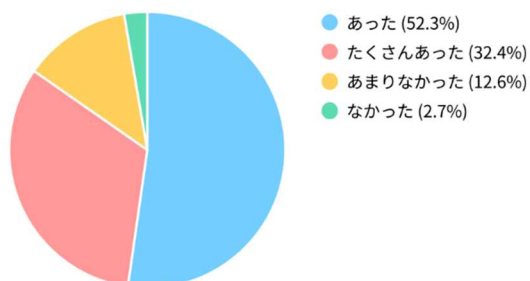
第 2 次実践「情報産業とわたしたちの暮らし」において、オリジナルニュースづくりを行う過程の中で、グループでテーマ選び、情報収集、情報編集、情報伝達の仕方について対話しながら協働的に活動する様子が見られた。グループで協働した今回の経験から、ふり返りに「たくさんの人が協力してくれるからこそ知れる情報がいっぱいある。だからこそ、この授業。ニュースづくりをしてめちゃくちゃ感動しました。」と記す児童もいた。

年度末のアンケートの項目の一つ、「自分たちが疑問に思ったことや知りたいことを調べたり、自分たちでニュース番組を作ったりする学習は、〇〇〇を調べましよう先生に言われて調べるより、やる気がでましたか。」の質問に対して、「とてもやる気が出た」「やる気が出た」と約 94 パーセントの児童が回答している（資料 8）。また、「グループで調べたり、まとめたりすることに進んで取り組みましたか。」には、91 パーセントの児童が「進んで取り組めた」と回答した（資料 9）。これらの結果から、自分たち自身で学習課題を設定することで、主体性が向上し、対話を軸とした協働的な学習の良さを感じながら取り組むことができるようになったことが読み取れる。

以上のことから「少人数グループで学習課題を決め、課題解決に取り組む機会を設定することで、対話の量や質が向上し、社会的な見方・考え方を働かせながら協働的に学ぶことができるのではないか。」という仮説イについても、一定の成果が見られるものであったと考える。

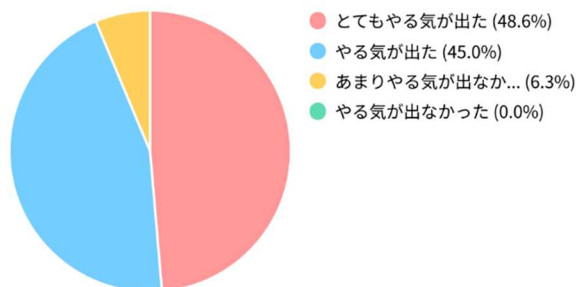
資料 7

【1】 社会科の授業で、農業、水産業、工業、情報、国土、環境などについて学習しました。学習の中で、自分で疑問に思ったり、調べたいと思ったりしたことがありますか。



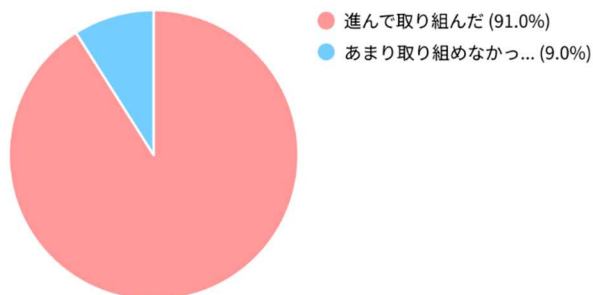
資料 8

【2】 自分たちが疑問に思ったことや知りたいことを調べたり、自分たちでニュース番組などを作ったりする学習は、〇〇〇を調べましよう先生に言われて調べるより、やる気がでましたか。



資料 9

【3】 グループで調べたり、まとめたりすることに進んで取り組みましたか。



6 成果と課題

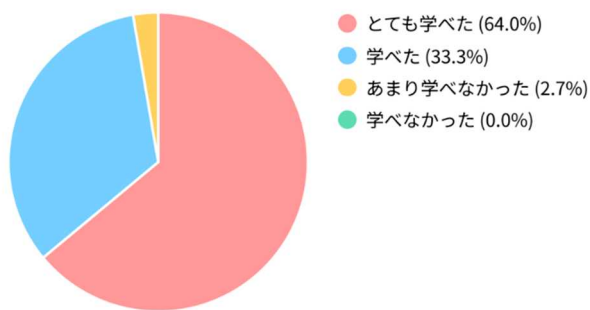
年度末のアンケートの残りの項目を参照しながら、成果と課題について考えていく。「社会科の学習の中で、知らなかったことを学ぶことができましたか。」の質問には、「とても

学べた」「学べた」と答えた児童が 97 パーセントであった（資料 10）。社会科という教科の特性上、知識の獲得は特に重要なことである。児童の疑問や調べたいことを学習課題に反映させ行ってきた授業で、主体性が向上するとともに知識の獲得への意識も向上したのではないだろうか。主体的に調べ学習に取り組むことで新たな疑問が生じ、さらに調べていきたいという思いが高まり、新しい知識を獲得し続けることにつながる良い循環が生まれたと考える。

次に「社会科の学習は好きになりましたか。」の質問には、約 74 % の児童が「好きになった」と回答した（資料 11）。「前と変わらない」と回答した児童が約 26 パーセントいたものの、「きらいになった」が 0 % だったのは、主体的に学習に取り組み、社会科への関心が高まった結果と考えられる。

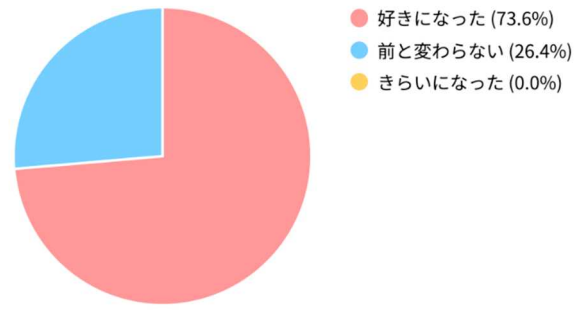
資料 10

【4】社会科の学習の中で、知らなかったことを学ぶことができましたか。



資料 11

【5】社会科の学習は好きになりましたか。



さらに、1 年間のふり返りを自由記述形式で回答したものには、調べ学習が楽しくなった、社会科の授業への苦手意識がなくなった、友達と協力して活動するのが楽しかったと肯定的な意見が大多数で、児童たちの社会科の学習に対する感じ方、考え方が変容しているのがよく分かる。（資料 12）

資料 12

社会の授業で全く知らなかった常識も知れたし友達とも一緒に学習できたのが楽しかったです。
5年生で社会の授業をやってきてすごく変わったと自分でも実感しています！

私は、あまり社会は好きではなかったのでそんなに他の授業と比べてやる気が出ませんでした。だけど勉強とか色々な課題とかに進んでいくうちに社会の授業が面白くなってきて最初の頃と比べてだいぶ授業が好きになってきました。社会の授業で学んだことは、凄く世界とか色々な国の名前を覚えれたのが良かったと思いました。楽しかったことは、情報の所のグループでニュースを作ったことです。私はあまりニュースとか動画を撮ったりすることがないので楽しかったです。自分たちで情報を集めて編集とかをしたり会議みたいなことをグループでやったり私たちが大人になった時に役立つ事を色々学べたので楽しかったです。

国土の単元が一番面白かったです。日本や外国の地形に興味湧きました。
社会で自分の調べたいことを調べて、まとめて資料を作るのが好きなので、
今年その機会がたくさんあって楽しかったです。（特に低い土地が楽しかったです。）

私は社会が苦手で全然できなかったけどこの社会をやっていくことでなんとなくめっちゃう楽しくなっていました！これからも面白いこと期待しています！

私はいつも社会の時に、いろいろなことをせいけ先生は楽しく学ばせてくれました。この一年は特に社会で調べたり、グループ活動がとても多かったです。今年は調べたり、グループ活動が多かったからか、とても先生から学ぶ以外にも調べたり、グループ活動が好きになりました。

型の授業を行う上で、インターネットを活用して自由度の高い調べ学習をさせることで、更なる主体性の伸長や多面的・多角的な考えの共有につながると考え実施したが、特に一学期は時間がかかってしまった。効果的な資料の精選や、児童の情報を取捨選択するスキル育成などの必要性を感じた。

児童が自ら持った疑問や関心のある事象を学習課題に反映させ、問題解決型の授業を行うことや、少人数グループで学習課題を決め、課題解決に取り組む機会を設定することで、児童の主体性が高まり、対話を軸とした協働的な学びにつながっていくことが感じ取れたので、今後の課題を踏まえ、より良い授業の在り方を継続して研究していきたい。